

群馬県 御中

分析レポート

群馬県の登山道の整備についてアイデア募集中！

PoliPoli Gov

2024年02月22日



目次

01.意見募集の概要・実施結果	P.03
02.カテゴリごとの分析	P.07
03.意見の要約・具体的なコメント	P.11
04.全体考察	P.14
05.付録：ワードクラウド	P.15



意見募集の概要・実施結果

- **実施内容**：今後の登山道整備・管理体制の確立のため、意見募集を行った。
- **調査方法**：デジタルツール「PoliPoli Gov」を用いたインターネットリサーチ
- **意見募集のテーマ**
 - 群馬県の登山道の整備についてアイデア募集中！
- **調査期間**：2023/10/19～2024/01/31（105日間）
- **調査地域**：全国オンライン
- **ページ閲覧数**：4,656PV
- **総コメントユーザー数**：141人（*ユーザーIDの重複を削除した値より、ユニークユーザー(UU)数を算出）
- **総コメント投稿数**：176件（*コメント公開基準に抵触する非公開コメントを除外した値を算出）
- **回答者の属性（必須回答）**：
 - **群馬県との関わり**：群馬に居住・通勤・通学している, 過去、群馬に居住・通勤/通学した, 観光などで群馬を訪れた, 群馬を訪れたことはない
 - **年代**：10代以下, 20代, 30代, 40代, 50代以上

意見募集の仕組み



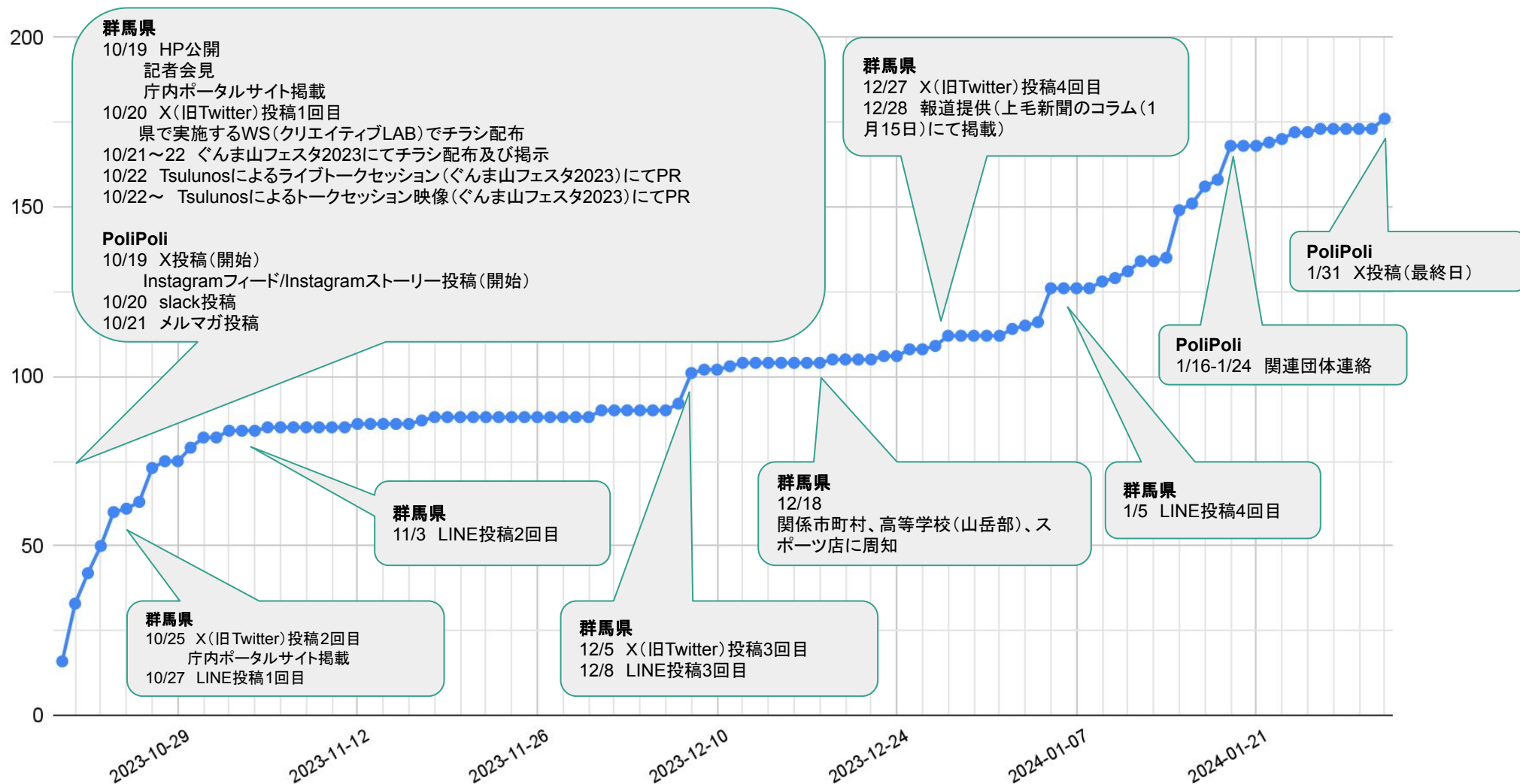
※プラットフォーム内のコミュニティを健全に保つため、投稿されたコメントが攻撃的な内容や広告目的と判断された場合に、運営側でコメントを非公開としています。



URL: <https://polipoli-gov.com/issues/0mSIEUcW2XU7OmRdEyuc>

意見募集の概要・実施結果 | コメント数の日次推移

コメント数推移(日次)

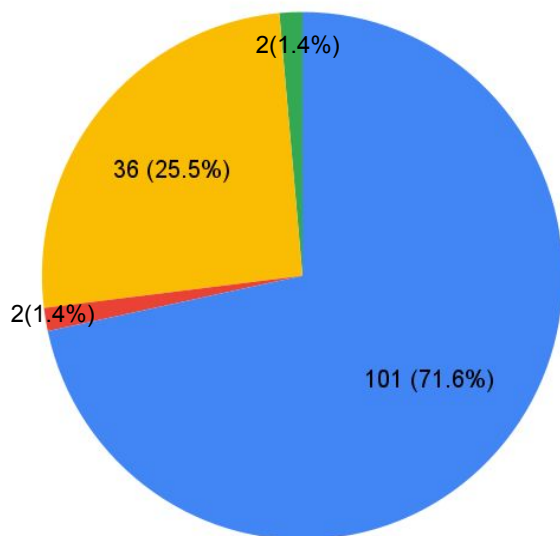


意見募集の概要・実施結果 | 全コメントにおけるユーザー属性

- 群馬県との関わりについては、101人（71.6%）が群馬県に居住・通勤・通学しているユーザーであった。また、観光などで群馬を訪れたことのあるユーザーは36人（25.5%）となった。
- 年代について、10代以下は2人（1.4%）、20代は6人（4.3%）、30代は19人（13.5%）、40代は44人（31.2%）、50代以上が70人（49.6%）となり、40代以上の回答者が114人（80.8%）と8割以上となった。

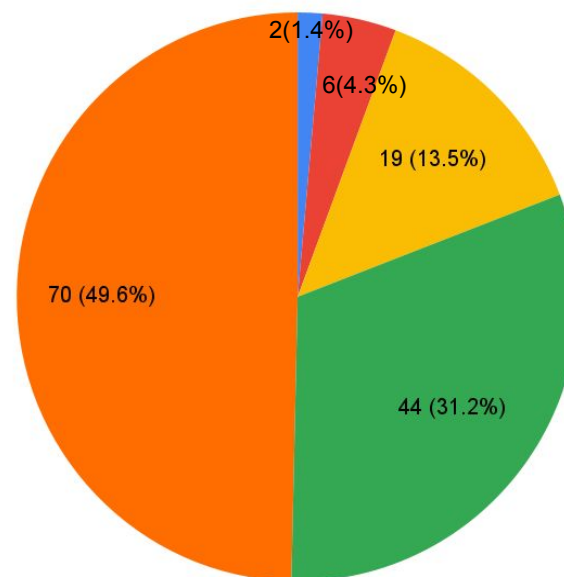
群馬県との関わり(UU 141人)

- 群馬に居住・通勤・通学している
 - 過去、群馬に居住・通勤/通学した
- 観光などで群馬を訪れた ● 群馬を訪れたことはない



年代(UU 141人)

- 10代以下 ● 20代 ● 30代 ● 40代 ● 50代以上

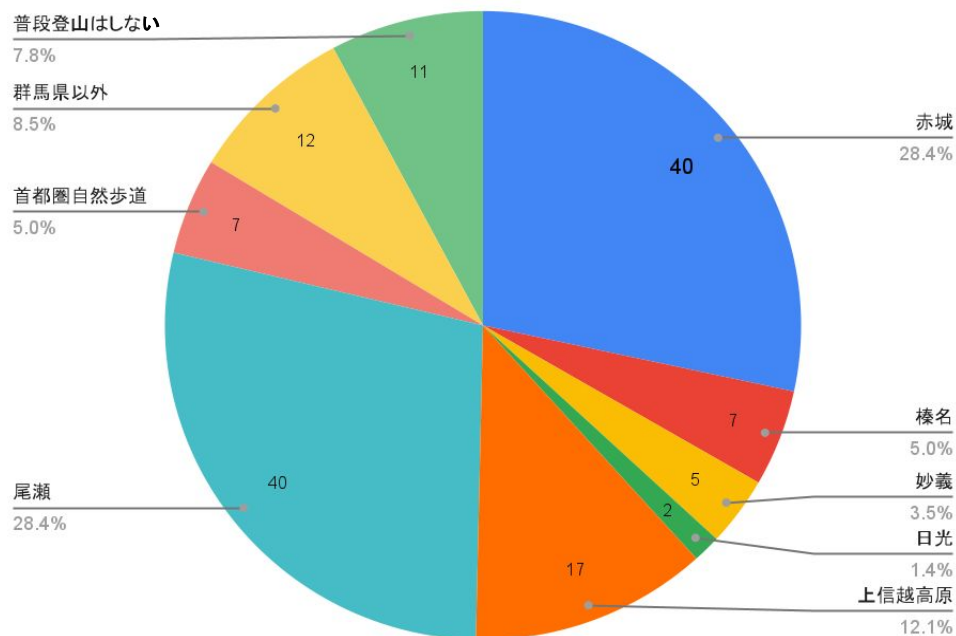


※UU=ユニークユーザー数。複数コメントした場合でも同一ユーザーとしてカウント

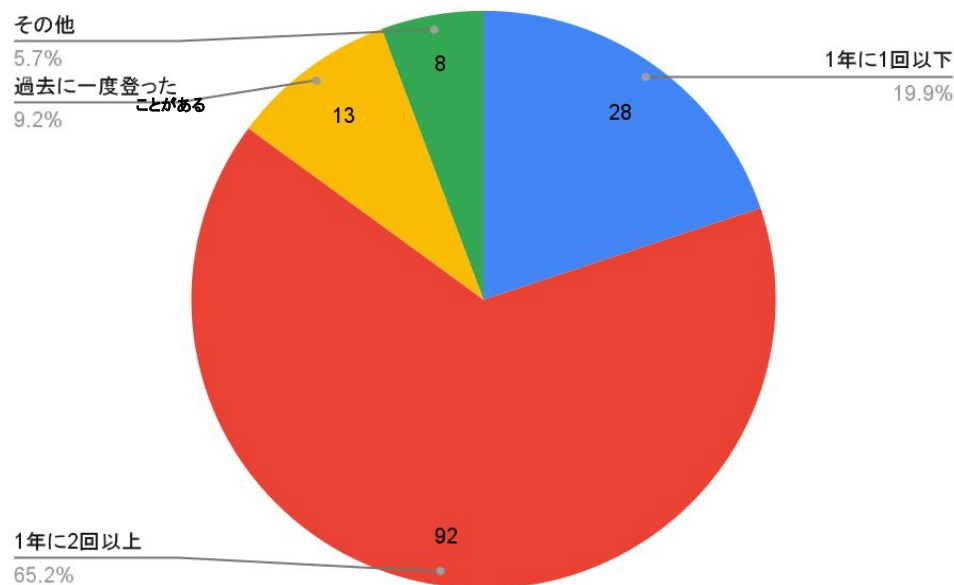
意見募集の概要・実施結果 | 選択式設問

- 設問「どのエリアの登山道を使いますか？」に対する回答は**赤城**と**尾瀬**がどちらも40人（28.4%）となり、赤城と尾瀬だけで全体の半数以上を占めた。
- 設問「どのくらいの頻度でその登山道を利用しますか？」については、**1年に1回以下**と答えたユーザーが28人（19.9%）、**1年に2回以上**と答えたユーザーが92人（65.2%）となり、1年に1回以上登山道を利用するユーザーが120人（85.1%）となった。

どのエリアの登山道を使いますか？ (UU 141人)



どれくらいの頻度でその登山道を利用しますか？ (UU 141人)

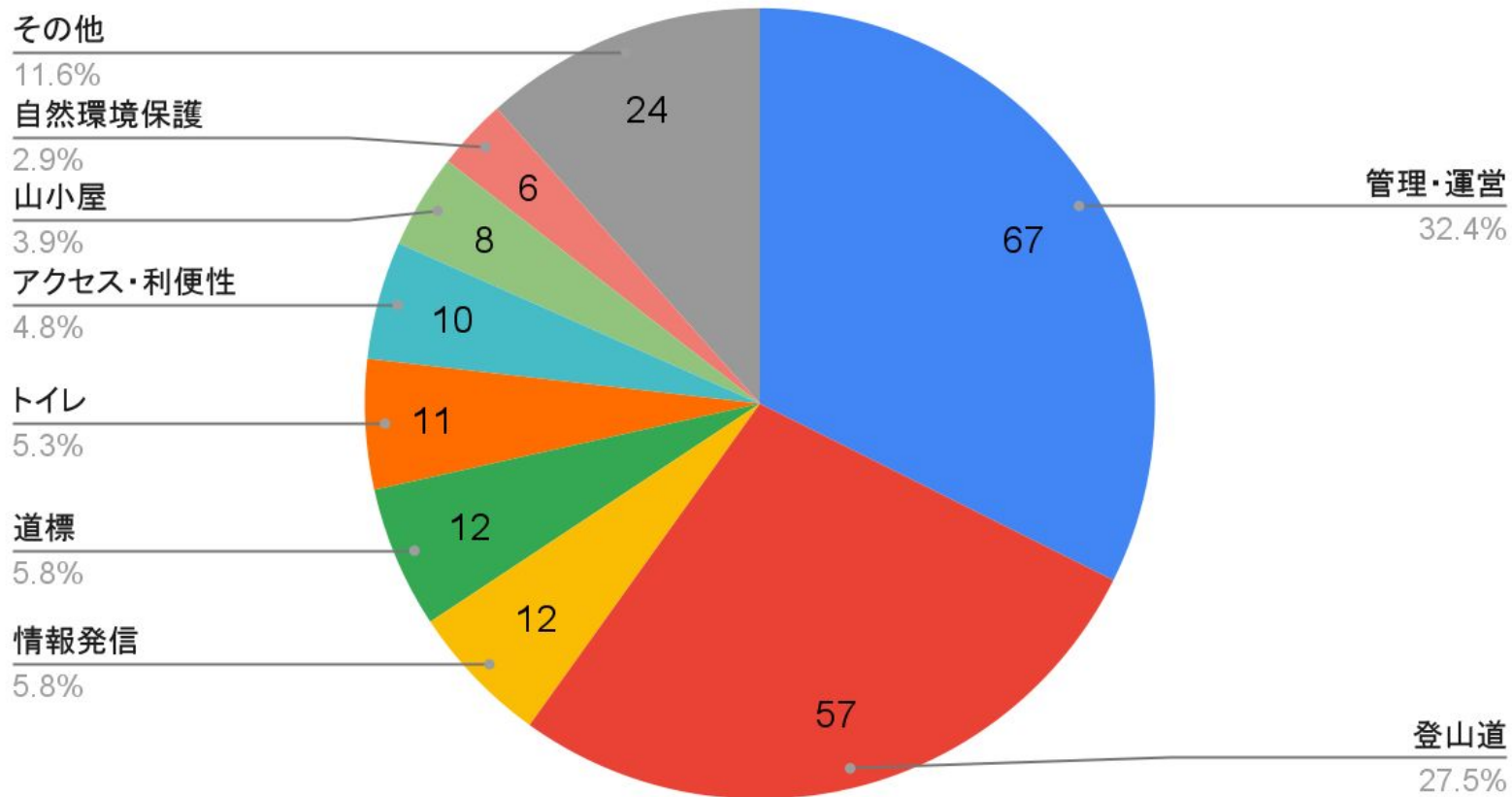


※UU＝ユニークユーザー数。複数コメントした場合でも同一ユーザーとしてカウント

カテゴリごとの分析

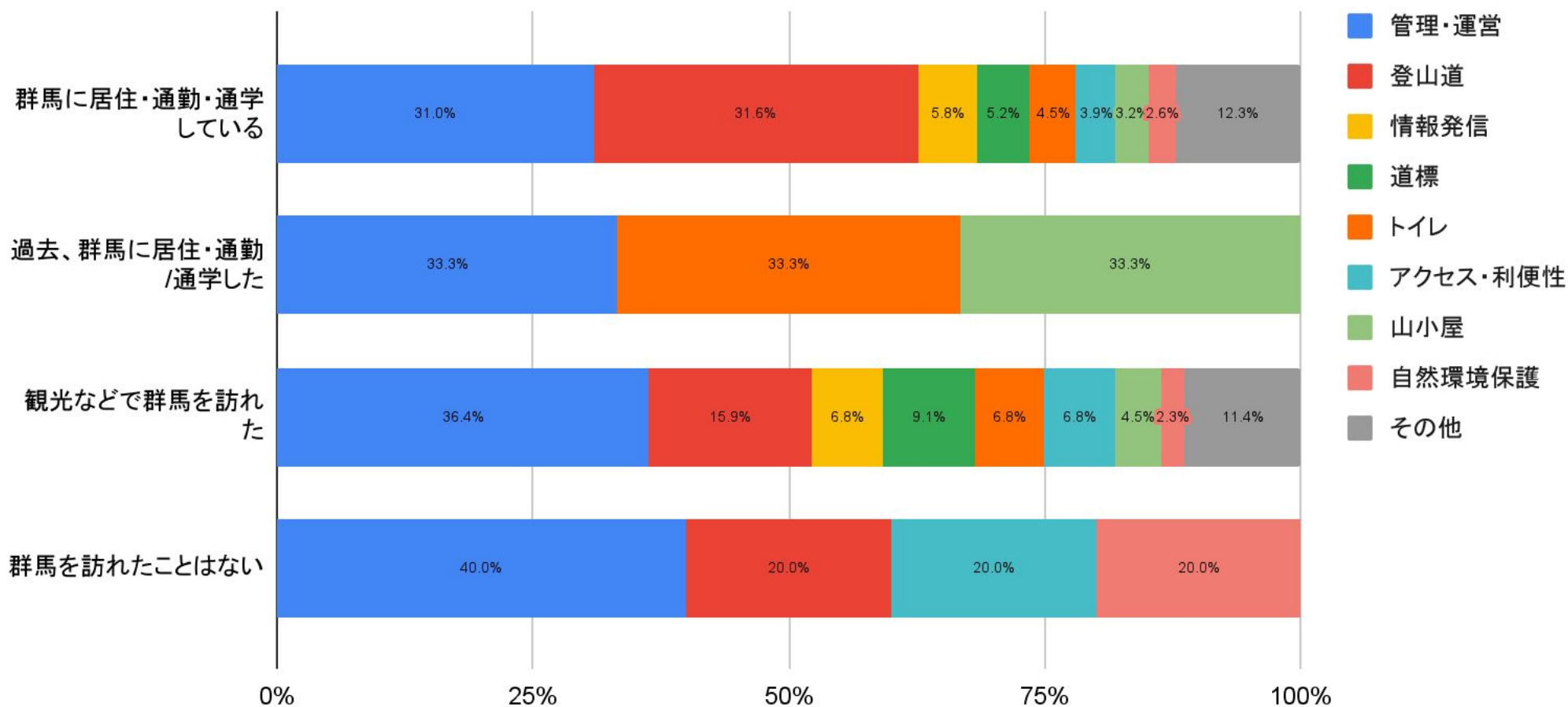
- 寄せられたコメントのカテゴリライズを行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。
※1つのコメントで複数カテゴリライズしたものを含む。

カテゴリ別



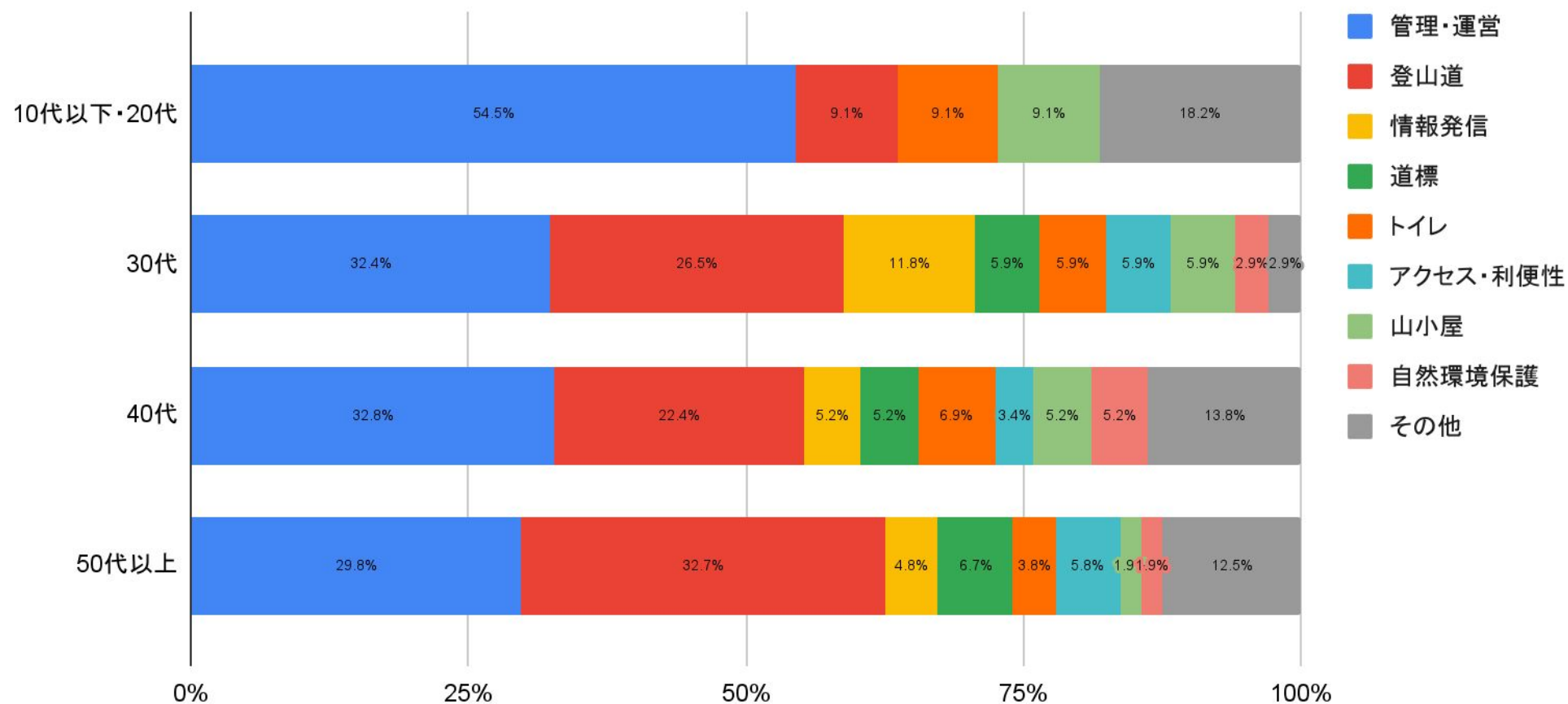
カテゴリごとの分析 | 群馬県との関わりとカテゴリのクロス分析

- 群馬県との関わりとカテゴリのクロス分析を行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。



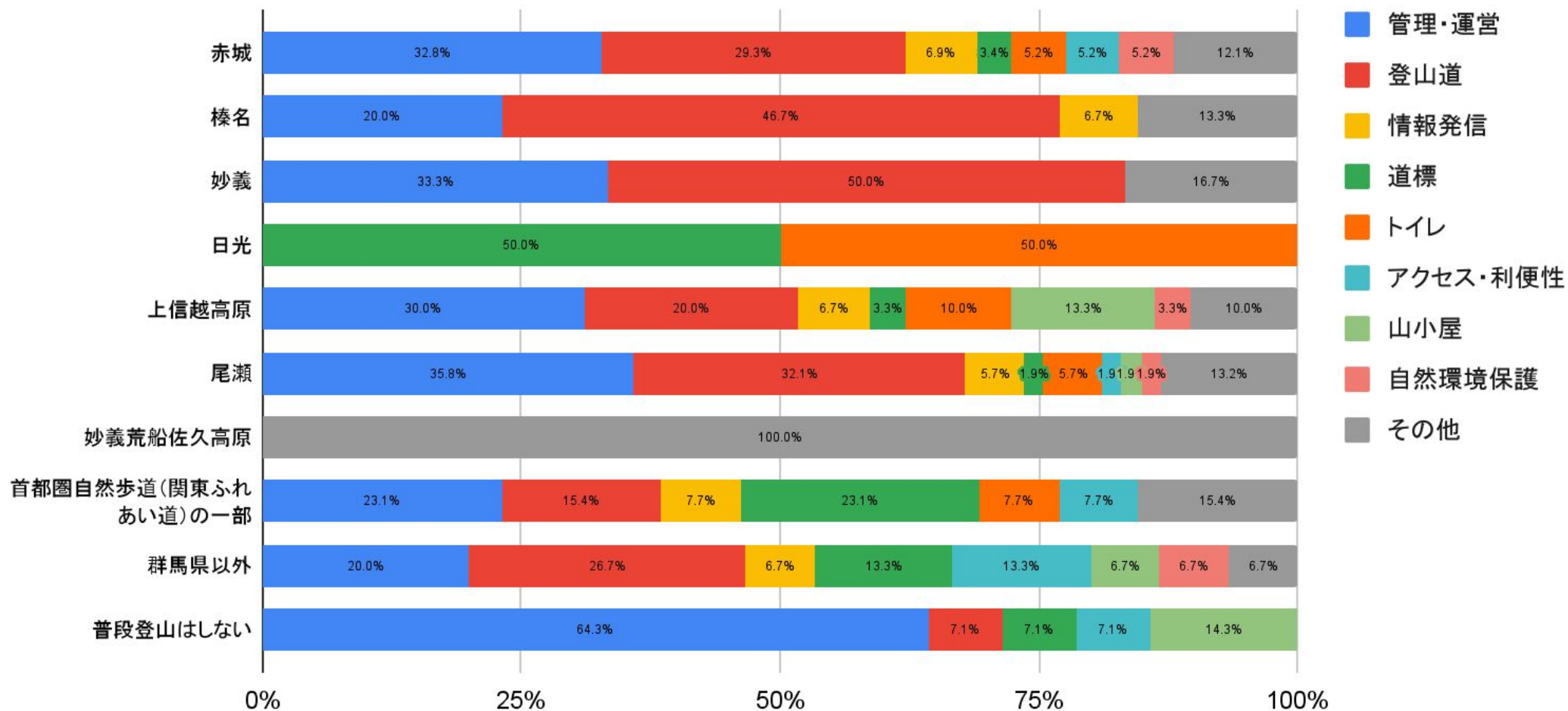
カテゴリごとの分析 | 年代とカテゴリのクロス分析

- 年代とカテゴリのクロス分析を行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。



カテゴリごとの分析 | 登山道エリアとカテゴリのクロス分析

- 登山道エリアとカテゴリのクロス分析を行ったところ、以下のグラフのとおりとなった。



意見の要約 | 今後の管理の在り方に関するコメント

- ボランティア
 - 現状を客観的に把握するための調査ボランティアを募ってみたらどうか。
 - 登山道整備の費用を寄付してもらったり、整備のボランティア活動してくれるサポーターを各山ごとに募集する。
- クラウドファンディング
 - 予算が取れないのなら、クラウドファンディングを活用するべきかと思う。（木道に寄付者の名前を入れられたりできるなど）尾瀬は、想いが強いファンの方が多い山域だと感じていますので、需要があると思う。
 - 返礼品付きのクラウドファンディングを定期的に行う。
- 協力金
 - 一口1,000円程度の協力金や入山料を設ける。（富士山と同様）
 - 駐車場を有料（できれば100円/日くらい）にして整備費の一部にあてる。
 - 定期的に植林を行い、参加者には参加料を払ってもらう。
- その他
 - 木道を最低限まで減らすことで、コストを削減をしたら良いと思う。木道が濡れていたり、凍っていると土の登山道よりもはるかに危険。
 - アウトドアメーカーとの協業、YAMAPと連携して寄付されるとバッジが貰える様にする。

具体的なコメント（一部抜粋） | 登山道に関するコメント

- 普段は吾妻山や鳴神山に登っている。赤城や谷川は年に数回登る程度だが、低山は地元の方が自主的に登山道の整備を行なってくれていて木段など危険箇所は少ないように思う。百名山の山は県外からも多くの登山者が来るので崩れている箇所なども多いように思う。駒ヶ岳からの下りは木段の段差が大きく何度も転んでいる人を見かけた事がある。赤城山は難易度の高くない山だが登山道の維持ができてない事から転倒などを見かけるのかと。
- 地蔵岳に至る登山ルートは八丁峠からのルートを除いて整備されていない所が多い。特に大沼へと抜けるルートは迷いやすかったり、登山道が複数できてしまっている所もあって危険を感じる。
- 黒檜山登山口から登ったところに倒木しそうな気がある。5年前以上から、あの木の根に足を引っ掛けて登山者が登っていくのを見てきた。昨年その根の周辺の土が削れ、足を引っ掛けていた部分はどこだったかな？と思う程に変わり果てていた。引っ掛けられなくなったためか、反対側に道が出来ている。
- 解決策としては榛名山の水沢山の登山道整備が参考になる。ここでは山道に精通した地元のボランティア（？）の方が現場の実情にあった工夫で大変歩きやすい登山道が整備されている。

具体的なコメント（一部抜粋） | 登山道に関するコメント

- 天目山周辺の木製階段は傾いたり倒れたりしており、階段上で転倒する。掃部ヶ岳には階段が設置されている箇所があるが笹の生長により歩きずらくなり脇の斜面を歩く道ができてしまっている。笹刈りを行わないと階段が機能しない。上記を含む外輪山の登山道は笹も含め足元の確認がずらい箇所が非常に多く、登山初心者・初級者にお勧めのコースとは言えない。榛名山カルデラ周辺の登山コースは、箱根をコンパクトにしたような非常に変化に富んで魅力的な景観を持つ場所でありながら比較的短時間で歩けることから群馬の宝であるが、放置されてみすぼらしいと感じさせたのでは、他のエリアも推して知るべしであろう。
- 鳩待峠から尾瀬ヶ原エリアは観光客も来るメジャールートなので、木道の整備は定期的に行われている。半面、一ノ瀬から三平峠越えや白砂峠の前後などは整備の手が回っていない印象。小淵沢田代や大清水平周辺の木道の荒廃は著しく、ルートとしてお勧めできない状況となっている。木道の管理は、旧東電、環境省・群馬県、福島県が分担して行っているはずなので、多くの情報提供を行って各々の管理者が整備に着手するよう働きかけたい。
- 百名山で言うと、皇海山は沼田からの林道が使えなくなり、日帰りがとても難しく、登山者からは避けられている状態で登山道も荒れている。せっかくの百名山というスーパー集客資源をぜひ活かしてほしい。とてももったいない。

全体考察

- 今回の意見募集においては、観光などで群馬を訪れたことのあるユーザーの割合が4分の1以上となり、県外から訪れている登山客からのコメントも多く寄せられた。ユーザーの年代においては、中高年層以上の回答者が8割を超えた。1年に1回以上登山道を利用するユーザーが8割以上となり、実際の体験に基づくコメントが多く寄せられた。
- **管理・運営**に関するコメントが最も多く、ボランティア・NPO・直接雇用等による人材の確保、入山料・協力金・寄付金・広告収入・クラウドファンディングによる収入の確保、登山系アプリとの連携による情報収集等に関するコメントなどが寄せられた。QRコード決済による入山料の徴収、自動販売機での記念品販売、トレイルメンテナンスツアーの企画など具体的なアイデアも多く集まった。今後の管理体制に課題感を持っているユーザーが多く見られ、関係団体と連携しながら積極的に新しい取り組みを実施することが求められている。
- 施設毎（登山道・道標・トイレ・山小屋）のカテゴリの中では、**登山道**についてのコメントが最も多く、木道・階段の破損や腐敗、倒木等による転倒の危険性に関する意見が多く寄せられた。エリア毎、個別の危険箇所や要望に言及するコメントが多く集まった。（P.12-P.13に掲載）
- **道標**についてはルート案内・コースタイム表示への要望、標識やピンクリボンなどによる道迷いの防止に関するコメントが寄せられた。
- **トイレ**に関しては、常設トイレの整備だけではなく、移動式トイレ車両や携帯トイレブースなどの設置要望も寄せられた。
- **山小屋**に関しては、避難小屋の新設要望や老朽化対策に関するコメントが寄せられた。
- 登山エリア毎のクロス分析においては、**上信越高原と首都圏自然歩道（関東ふれあい道）の一部**における登山道へのコメント割合が少ない傾向にあった。

PoliPoli Gov